

地域の わ 通信

Kanagawa-ku
Chiiki ryoku

神奈川県神奈川区の庁舎内向けに、区内の地域情報や地域支援に関わる業務などを紹介します。

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

Case 7

ふれあいっこ三ツ沢

子どもを見守るナナメの関係を作る場所
今日も元気に「いただきますーす！」



■三ツ沢のせせらぎ緑道から坂を上ると、住宅地の一角にみえてくる三ツ沢東町自治会館では、月2回、子ども食堂「ふれあいっこ三ツ沢」が開催されている。訪れると、玄関先で明るい笑い声と食事の美味しそうな匂いが迎えてくれた。

■「ふれあいっこ三ツ沢」は、昨年9月から小中学生の居場所として、三ツ沢地区の主任児童委員である小川真奈美さんが代表となり、三ツ沢地区連合自治町内会と連携して運営している。

■小川さんは、神奈川県地域づくり大学の第1期（平成27年）の卒業生でもある。大学の卒業制作として地域で叶いたい夢を描く「夢プラン」では、朝食抜きで登校する子どもに、朝食を提供する取組を考えた。「ふれあいっこ三ツ沢」にもその思いが詰まっており、主任児童委員としてかねてから望んでいた地域の子どもへの食を通じた活動が、「かなが

わ地域支援補助金」の活用により、この子ども食堂として実を結んだ。

■毎月2回（第1水曜日と第3土曜日）の開催日は、子どもや親子連れで賑わう。地域の有志がボランティアで、それぞれの回の料理を担当している。

水曜日の料理担当は、かつて三ツ沢地区で高齢者向けの配食サービス「ふれあい会」で、ボランティア経験がある女性8名。40名ほどの食事を段取りよく、絶妙な連携で作っている。メンバーはボランティア活動を通して知り合ったお互いが尊敬し合う間柄で、「子どもが喜ぶのが一番だと思っています。お金じゃなく、仲間と一緒に自分が楽しみ、人の役に立てるのが嬉しい。」と言う。

■食事を待つ間や食後、神奈川大学や横浜国立大学の学生ボランティアが、子どもの遊び相手となり、勉強を見てくれる。この時間を楽しみにしている子どもも多く、笑い声が絶えない。「帰りには



へとへとになるけど、この活動はとても楽しい。」と学生のひとりは言う。

■この日の料理は、茨城県にある大嶋農園からもらった大根がメインのメニュー。野菜が苦手な子どもにも食べやすいよう調理を工夫し、完食した子どもには「よく食べたね。やったね!」と拍手が起こる。大勢と一緒に食べる食事だからできる食育の場がここにはある。

■最近ではHPも立ち上げた。自主的に講座で学び、自分たちでHPを作成した。また9月には、三ツ沢西町に新たな子ども食堂がオープンした。これから先、三ツ沢地区内で、週1回程度の子どもの食堂の開催を目指している。

「子どもたちとの関係は、家族でも学校の先生でもない、ナナメの関係だと思っている。子どもが地域でさまざまな大人と出会い、多方向から子どもの支援をしていきたい。」と代表の小川さん。

■子どもの食については、食育の必要性や欠食、孤食などいろいろなことが問題になる昨今だが、家族だけでなく子どもを取り巻く地域の大人が関わることで、「ふれあっこ三ツ沢」のような新しいかたちの食にたどり着くのかもかもしれない。

【ふれあっこ三ツ沢】

開催日：①第1水曜日 午後5時～8時

②第3土曜日 正午～3時

食 事：大人 200円 子ども 100円